

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて 93

### 複数種目授業の実践報告と課題⑦（剣道・銃剣道）

平塚市立土沢中学校

土沢中学校は自然豊かな神奈川県平塚市の西部丘陵地帯の高台に位置しており、屋上からは西には富士山、北には丹沢連峰・大山の大パノラマが広がる。

生徒数は、1年生40名、2年生46名、3年生42名の計128名であり、規模では神奈川県内全410校中400番目となる小規模校である。

昔から地域と深い関係があり、地元関係者や、県の大学生ボランティアなどの協力も得ながら、雄大な大自然に囲まれ、生徒たちは勉学・部活動に励んでいる。

今回、土沢中学校を訪ね、日本全国の中学校で初めての実施となる銃剣道授業を取材させていただいた。

その取材を踏まえ、同校の剣道と銃剣道の授業実践について紹介したい。

#### 1 銃剣道授業 実践の経緯

土沢中学校で唯一の保健体育科教師である清水陽介教師は、以前まで新潟県立三条商業高等学校に勤務し、銃剣道部に関わっていた。専門は水泳で、北島康介選手とメドレーリレーを組んでいたほどのバタフライの選手である。

銃剣道部では、当時の銃剣道部顧問である滝沢元気氏の銃剣道指導を毎日、横で注視していた。

土沢中学校に転任後は、武道授業は剣道を、部活動の顧問はバレーボール部を担当し、銃剣道とは疎遠な日々を送っていた。

平成26年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業（主催：日本武道館、全日本銃剣道連盟）が、平成27年2月27日～3月1日の3日間、千葉県勝浦市で実施されるにあたり、銃剣道の主要研究者の一人である滝沢元気氏は、銃剣道を専門としない中学校保健体育科教員として清水教師を全日本銃剣道連盟に推薦。清水教師は同研究事業に研究者として参加した。

研究事業では清水教師が授業者となり、銃剣道未経験の中学生19名に対し模擬授業を行った。教える側、教えられる側ともに初心者という状況で銃剣道の模擬授業を行えたことで、清水教師は勤務校の土沢中学校でも銃剣道授業は実施可能であると確信を持つことができた。また、土沢中学校では剣道授業を行う際の用具としては竹刀しかなく、十分な授業を実施できているとはいえなかった。そのことも銃剣道授業を行う意義となり得ると感じていた。

後日、清水教師は深谷昇平校長に対し、平成27年度に銃剣道授業を実施したいと進言。自身も陸上部の顧問を務め、スポーツに理解のある深谷校長は、「剣道授業に加えて実施するのであれば」という条件付きで承諾した。銃剣道の世間一般のイメージを考え、平成27年12月、銃剣道授業を1月から実施することを念のため事前に保護者に通知。しかしながら、異議をとなえる保護者は一人もいなかった。その要因には昔からの地域との深い信頼関係があるのでない

か、深谷校長はそう感じたそう。

清水教師は研究事業での資料を基に単元計画を作成。武道授業は剣道3時間と銃剣道5時間の授業、計8時間を清水教師が単独で行う。全日本銃剣道連盟からは木銃40本が提供され、日本初の銃剣道授業実施に向けて、着々と準備が進められた。

#### 2 授業実践

##### ▽銃剣道

取材した2月5日、2年生の4回目の銃剣道授業が行われる予定であったが、土沢中学校では前日までインフルエンザにより1・2年生で学年閉鎖となっていた。よって当日は、2年生に対する2回目の銃剣道授業が行われた。準備運動に続き、生徒たちは素足になり木銃を用意。木銃を手にした生徒からは思わず笑みがこぼれた。始めに前回の復習となる構え、足さばきを行った。足さばきは、生徒は一週間前の授業を思い

出しながら四方八方へ片足を移動。その後、2グループに分かれ、互いに確認しながら足さばきの指導がなされた。

続いての突きの指導では、清水教師から「大事なものは右手です、突く時は前に右手をしっかり出してください」と助言がなされた。新聞切りでは清水教師から「基本のかたちから正しく突くように、突いてからは一度木銃を止めること」とのアドバイスがなされた。

生徒たちは3人1組になり、意外と破ることが難しい新聞切りに自然と熱が入り、正確に突くよう努めていた。一度、成功すると生徒たちは満面の笑顔をみせた。

授業の締めくくりとして、部活動では使用していない古いバレーボールを用いてボール突きの授業が実施された。清水教師からは「ボールはまっすぐなるべく床と並行に投げるように」との注意があった。生徒たちは、突くとんでもない方向に飛んでいくボールに四苦八苦。突くごとに徐々にコツを掴んだのか、正面に返すことができるようになった。最後は2

グループに分かれて、ボール突きのグループ対決。生徒たちは仲間とともにボール突きを何度も行っていた。3回目の授業では突きに併せて足さばきを行ったり、2人で向かい合わせになり、直突と反対の交差を行い、4回目では銃剣道の形の一本目を紹介。最後の授業では形の発表会を行った。

##### ▽剣道

竹刀の握り方、名称の把握。1年生では新聞切り、基本動作となる面打ち、小手打ち、胴打ち。2年生では、2人向かい合わせで竹刀をもち、立礼、蹲踞、面打ちを2本交代で行う、蹲踞、立礼のという形のような流れを発表した。銃剣道同様に剣道も清水教師単独で実施。剣道も専門ではなく、防具もないため、最低限に留めたという。

以下は学習カードによる生徒たちの感想である。

##### ○生徒の感想

▽銃剣道・一回目の授業  
①今日は初めて銃剣道というものをやりました。銃剣道の木銃は



平塚市立土沢中学校



ボール突きの指導



向かい合い、全員で突きの練習



嬉しそうに木銃を手に取る生徒たち



最後は全員でボール突きのグループ対決



新聞突き



清水教諭による突きの手本

鮮な銃剣道授業に目を輝かせ、熱心に行っていたという。生徒たちの刺激になったのではないであろうか。銃剣道授業を実施している3年生は羨ましがっていたそうだ。こういう機会がなければ、子どもたちにとって全く知らない科目であったと清水教諭は語った。

文部科学省の学習指導要領には、「…地域や学校の実態に応じた、なぎなたなどの他の武道についても履修させることができること。…」また、学習指導要領解説書には「…原則として、その他の武道は、示された各運動種目に加えて履修させることとし…」とあり、「剣道に加えて、銃剣道授業を行ったことに何ら問題はない。また、文部科学省委託事業「武道等指導推進事業（武道等の指導成果の検証）」の調査報告書（平成27年3月・調査研究協力者会議）によると、「保健体育の授業は好きですか？」との問いに対し、80%程度の生徒が「そう思う」と回答している。一方、「柔道・剣道・相撲の授業は好きですか？」との問いに対しては、50%

剣道という竹刀です。木銃は、銃のような部分があるので木銃という聞きなれた。また、自分の背よりも大きい物だったのでびっくりしました。最初に構え、直れの練習をしました。足さばきは難しく、ついていくのが大変でした。次回も頑張ります。（2年・女子）

②今回、初めて銃剣道を見た。先生が言っていたように、銃の形をしていた。最初の足さばきの練習では、開き足右・左が少し難しかった。でも、慣れるとすぐにできたので良かった。その後、銃剣道を持って足さばきをした。持ったとき、少し緊張したし、足さばきがぎこちなくなっていました。この足さばきは基本中の基本なのでしっかりと身体に覚えさせたい。（1年・女子）

▽銃剣道・最後の授業  
テストでは、順番が3番目でしたが、あまり練習はできませんでしたが、そこまでミスなくできてよかったです。ですが、近付いて突くことが上手く出来なかったです。もっと練習すればよかったなと思いました。（1年・女子）

3 成果と課題

▽剣道・一回目の授業  
今日は剣道の構えと座礼・立礼をやった。今まで私は一度も竹刀に触ったことがなかったので、構えの仕方がまったくわからず苦戦しました。ですが、授業後半になって構えが上手くできるようになりました、よかったです。（1年・女子）

▽剣道・最後の授業  
今回は剣道のテストでした。本番ではキッチリできて良かったです。立っている時は剣が下に向かないように、座わる時は足を広げました。声も出したので自分的には満足でした。（2年・女子）

銃剣道授業では、三条商業時代の蓄積や研究事業での知識があったので、それなりにこなせた。清水教諭は語る。生徒たちは初めて触れる166cmの長い木銃に「すごい」「こんなの見たことない」と異口同音に声を上げたそうだ。新

く60%程度の生徒が「そう思う」と回答するに留まっている。

今回、生徒たちにはあまり知られていない銃剣道という種目を体験し、目を輝かせながら武道授業を受けたことは、「加えて銃剣道」授業を行うことの大きな意義となるのではないだろうか。そして、複数種目の実施は武道授業全体の興味・関心の向上に繋がる可能性があるのではないだろうか。

銃剣道授業から銃剣道授業への移行でも生徒の混乱はなかったという。本年度は、1・2年生で同じ銃剣道授業を行った。28年度に清水教諭の人事異動がなければ、2年生については、次のステップの授業を行うという。銃剣道授業を実施できる教員が育つても、人事異動でその教員がいなくなると授業の継続は困難となる。いかに各学校で銃剣道授業を継続実施できる体制を後方支援するのか、全日本銃剣道連盟としても課題が残る。今後も土沢中学校の武道授業を注視していきたい。

（取材・文Ⅱ本誌・長澤克成）